

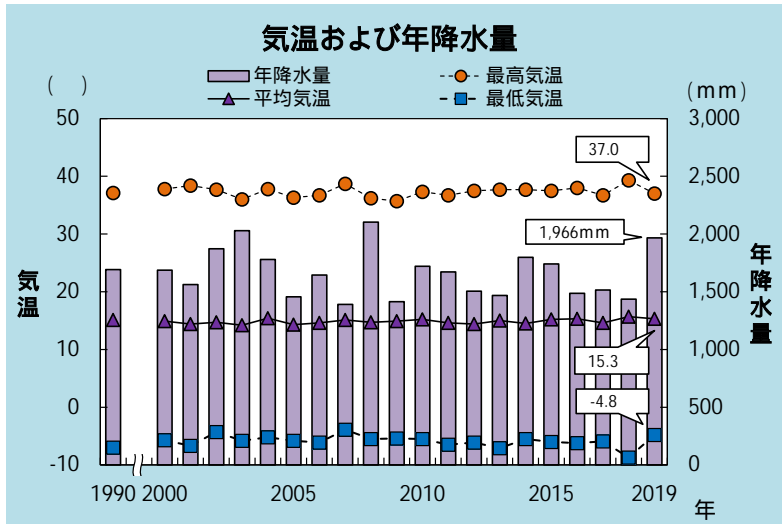
## 2. 町田市の環境の概要

町田市の環境の概要を紹介します。

### 2.1. 町田市の温暖化 ～二酸化炭素排出量の現状～

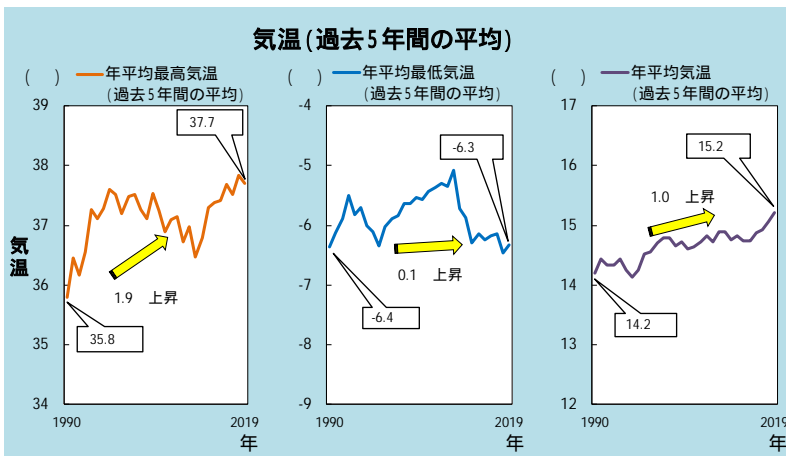
#### (1) 気温と年間降水量

ここ 29 年で平均気温は 1.0 上昇しています。



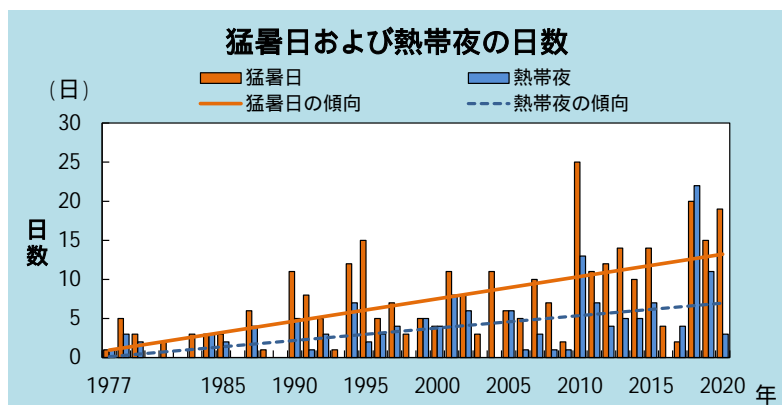
出典: 気象庁データ(八王子地域気象観測所)

町田市に最も近い八王子地域気象観測所の値によると、2019年の最高気温は、37.0、最低気温は-4.8、年平均気温は15.3、年間降水量は1,966mmで、降水量の多い年でした。



出典: 気象庁データ(八王子地域気象観測所)

最高・最低・平均気温の各年過去5年間の平均(例; 1990年は1986年から1990年の5年間の平均)でみると、1990年からの29年で最高気温は1.9上昇、最低気温は0.1上昇、平均気温は1.0上昇しています。



出典: 気象庁データ(八王子地域気象観測所)より算定

1977年以降の猛暑日(最高気温35以上)、熱帯夜(最低気温25以上)の年ごとの日数の推移をみると、その日数は年々多くなる傾向を示しています。

## コラム 地球温暖化と感染症

2020年は、新型コロナウイルスにより、日本社会のみならず世界全体で感染症への関心が高まった一年となりました。

感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体が、野生動物や家畜などの宿主から、鳥・虫などの動物、水、食物、場合によっては人を介して、体内に侵入することで発症する病気です。発症に至る諸条件に対し、地球温暖化による気候変動の影響については、以前から国内外で調査・研究されていました。

地球温暖化と感染症の関係については、いまだ不明点が多いです。しかし、以下のような気候変動による感染症リスク拡大の事例や可能性が認識されてきています。地球温暖化の防止に努力することは、感染症を含む世界の人々の健康問題への取り組みにもつながっています。

### 病原体発生・顕在化への影響

- ・エルニーニョ現象による気温上昇で、インドネシアのキコウモリの生息域が周辺国まで拡大。キコウモリを宿主とするニパウイルスにより複数の国で死亡者を出した。
- ・ロシアの永久凍土が熱波により溶融。永久凍土中のトナカイの死体に封じ込められていた炭疽菌が放出され、周辺地域で75年ぶりに炭疽菌の集団感染が報告された。

### 媒介動物の生息環境への影響

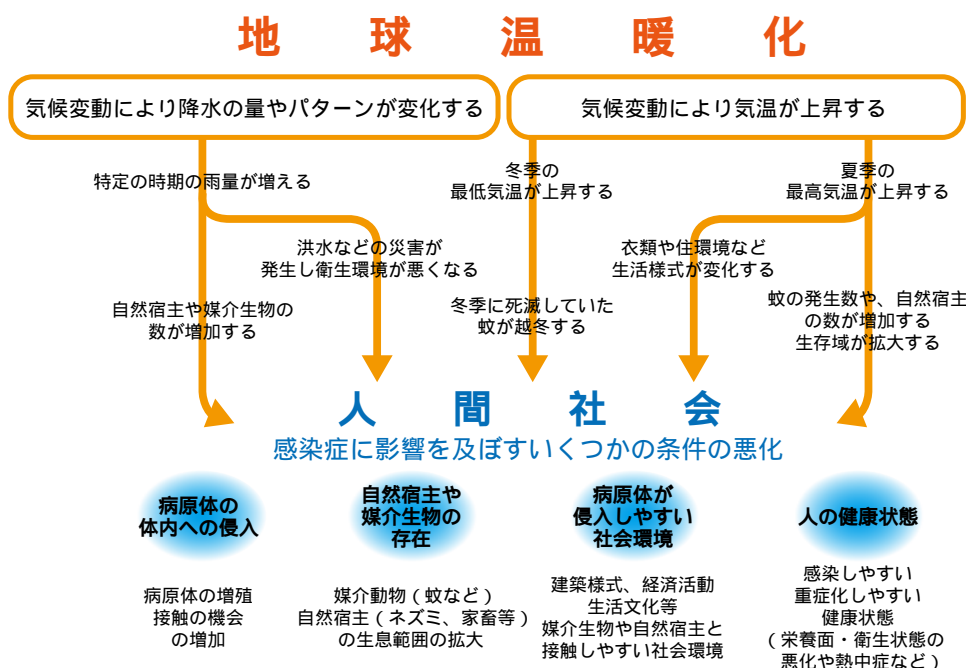
- ・デング熱・マラリア・日本脳炎を媒介する蚊の仲間の生息域が国内で拡大している。冬の気温の上昇により、幼虫で越冬する蚊も増加している。ただちにこれらの感染症が国内で拡大するわけではないが、災害や極端な気象などで公衆衛生環境が悪化すれば、感染リスクが高くなる恐れがある。

### 感染環境への影響

- ・海面上昇等の影響で、1990年代以降、コレラなどの水媒介性感染症が南米や南アジアで拡大している。

### 感染症の背景条件への影響

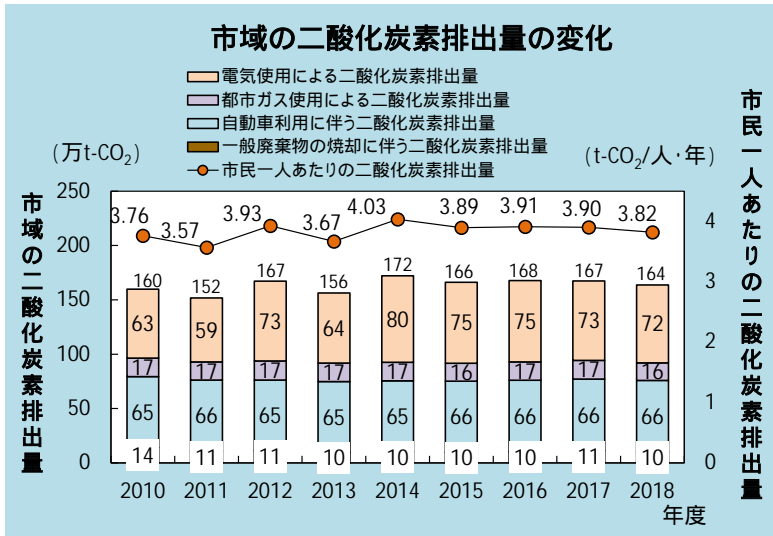
- ・飲料水や食物などによる感染症や食中毒と、熱中症などの症状が重なることで、重症化・死亡リスクが高まる可能性がある。



出典：環境省「地球温暖化と感染症(2007)」より加筆作成

## (2) 二酸化炭素排出量<sup>1</sup>

近年の二酸化炭素排出量はわずかに減少傾向です。

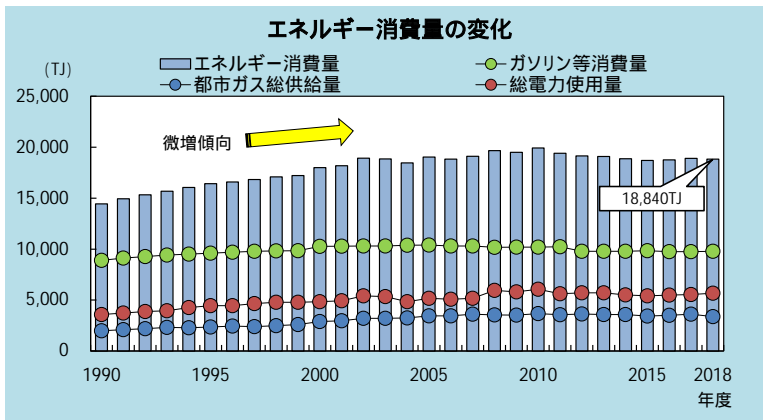


町田市の2010年度からの二酸化炭素排出量は、年度ごとに変動があります。その内訳を見ると、約44%を電気使用による排出量が占めています。電気使用量から二酸化炭素排出量を計算する際に使用する二酸化炭素排出係数<sup>2</sup>の変動の影響を受け、増減が大きくなっています。約40%を占める自動車使用による排出量は、ほぼ横ばい傾向にあります。

エコドライブ・公共交通の利用促進を引き続き図るとともに、電力使用量の削減について、より一層取り組みを行っていく必要があります。

## (3) エネルギー消費量<sup>1</sup>

近年は横ばいに推移しています。



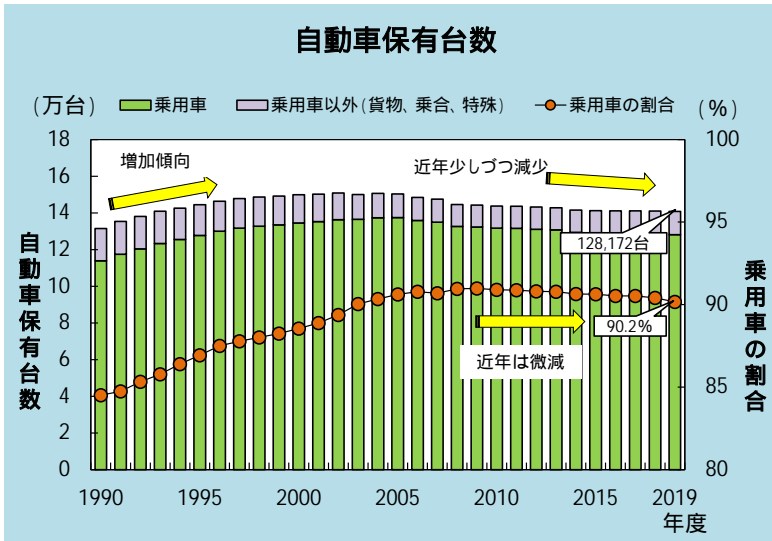
町田市全体のエネルギー消費量は、2000年ごろまで微増傾向にありましたが、その後横ばいに推移しています。

<sup>1</sup> (2) 二酸化炭素排出量、(3) エネルギー消費量の年次について：これらの数値については、東京都のデータを参照して算出してあり、本環境白書編纂時点で2019年度のデータが公表されていないため、2018年度の数値を掲載します。

<sup>2</sup> 二酸化炭素排出係数：エネルギー使用量あたりの二酸化炭素排出量を指し、電気の場合は、電力会社が一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを示すものです。

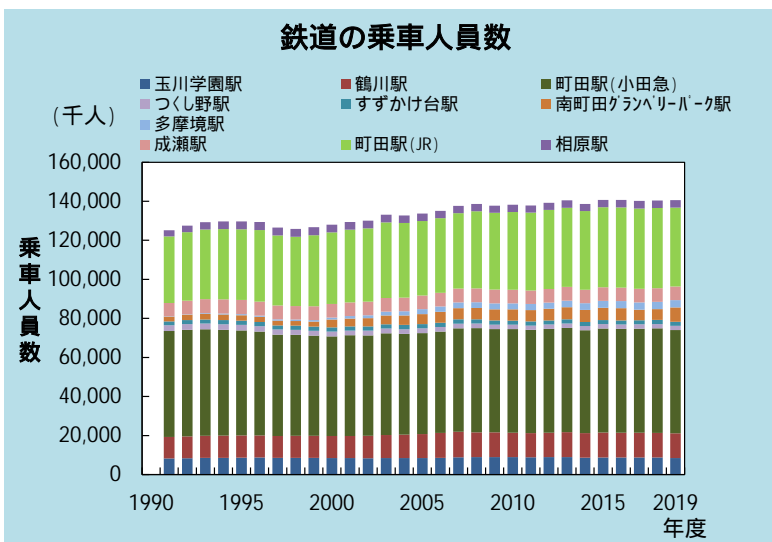
## (4) 自動車保有台数・公共交通機関利用者数

近年の自動車保有台数は微減、公共交通機関を利用する人は微増しています。



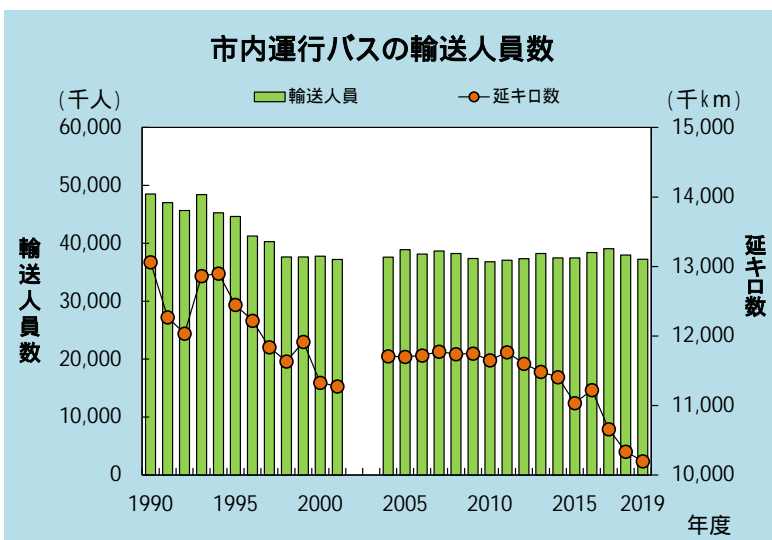
出典：市町村別自動車保有車両数 (一般財団法人 自動車検査登録情報協会編)

町田市全体の自動車保有台数 (登録自動車台数) は、2000年ごろまで増加傾向にありましたが、近年は少しずつ減少傾向にあります。2019年度は、2018年度に比べて532台減少しました。



出典：町田市統計資料

町田市内の鉄道4路線10駅の年間乗車人員数は1990年代後半に一時減少傾向を示したものの、その後現在に至るまで、微増傾向にあります。



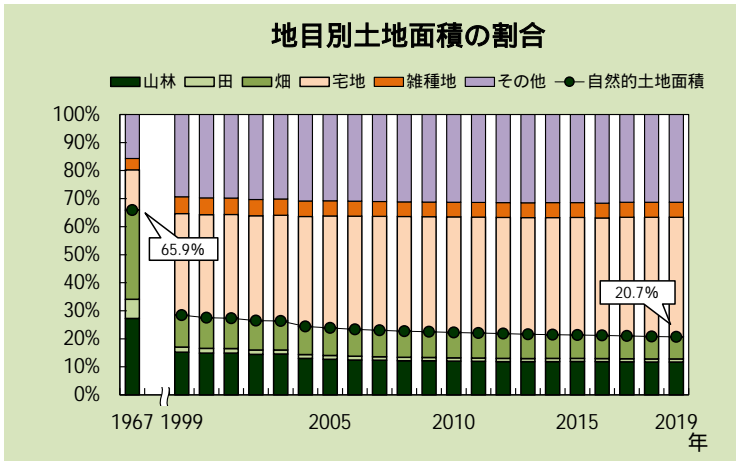
出典：町田市統計資料 (2002、2003年度はデータなし)

町田市内を運行するバスの延キロ数は減少傾向にあるものの、輸送人員数は、1998年度以降ほぼ横ばい傾向にあります。

## 2.2. 町田市の自然環境 ～地目別土地面積と公園等の面積から見る緑地の割合～

### (1) 自然的土地面積の割合

山林・田・畑などの自然的土地面積は年々減少しています。

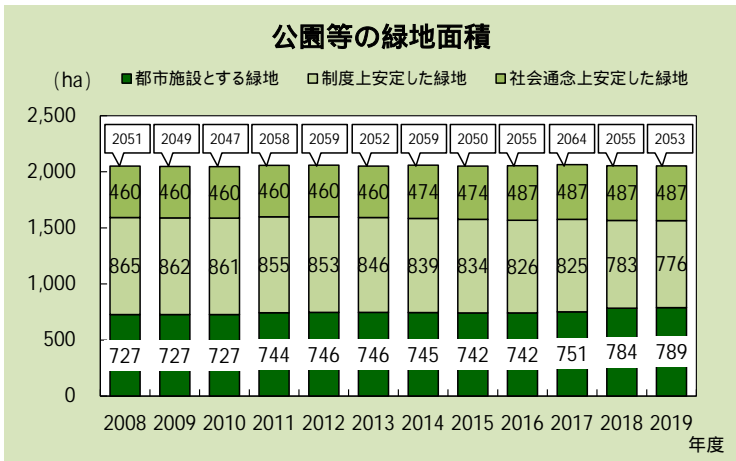


出典：地目別土地面積の推移(各年1月1日現在)

町田市は、鶴見川、境川、恩田川、真光寺川の源流域を有し、豊かな自然環境に恵まれています。しかし、地目別に見ると、1967年に65.9%あった自然的土地面積は、2019年に20.7%<sup>3</sup>となるなど、山林、田、畑などの自然的土地面積は年々減少しています。

### (2) 公園等の緑地

公園緑地等の都市施設とする緑地面積は微増しています。



出典：町田市公園緑地課資料

市では都市の主な緑地となる公園の整備や緑地の保全を進めています。

市民にとって身近な公園等である都市施設としての緑地の面積は、2019年度末で約789haであり、2008年度以降最大になっています。

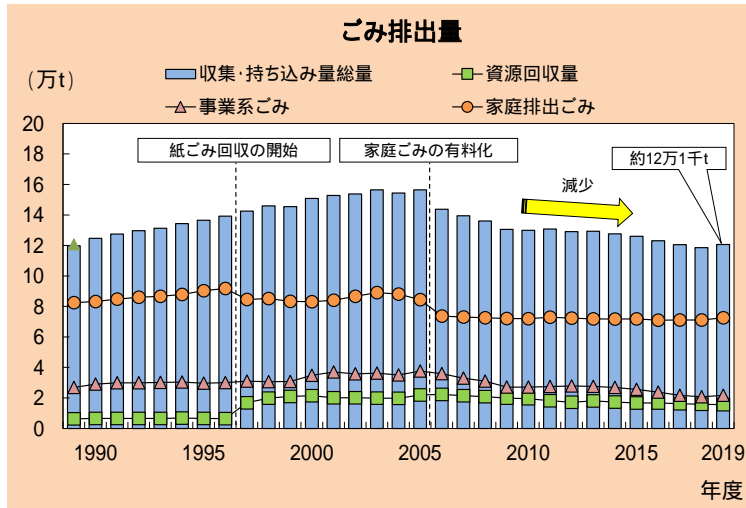
また、生産緑地や風致地区、ふるさとの森に代表される制度上安定した緑地、学校や社寺境内地等の、社会通念上安定した緑地などを含めると、町田市全体の公園等の緑地面積は2019年度末で約2,053haとなり、市域面積の29%を占めています。

<sup>3</sup> 地目別土地面積の算出方法：2015年度より固定資産税の概要調書作成において、「その他」の地目面積集計方法が変更され、地目別土地面積総計と行政面積に差異が生じました。このため、ここではその差異面積を、便宜的に「その他」の地目に加え、行政面積に対する地目別の割合を算出しました。

## 2.3. 町田市の廃棄物 ～ごみの排出量と資源化率からみる現状～

### (1) ごみの排出量

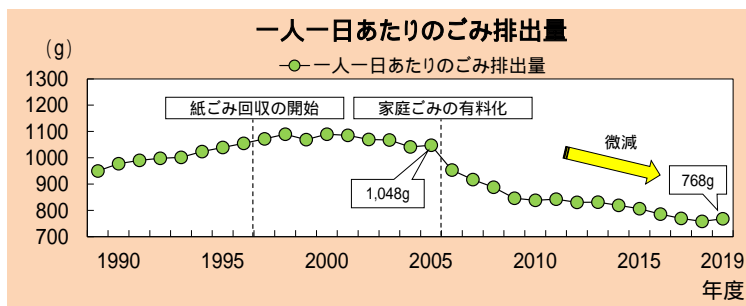
近年ごみの排出量は減少しています。



出典: 町田市清掃事業概要

ごみ排出量は、1997年度に紙ごみ回収を開始したことにより、資源回収量が増加し、家庭ごみが少し減少しました。ごみ排出量の総量は、2003年度から2005年度にかけて最も多くなりましたが、2005年10月から家庭ごみの有料化を実施したこともあり、2006年度以降は減少傾向にあります。

2019年度は、2018年度と比べて約2,051t増加しています。

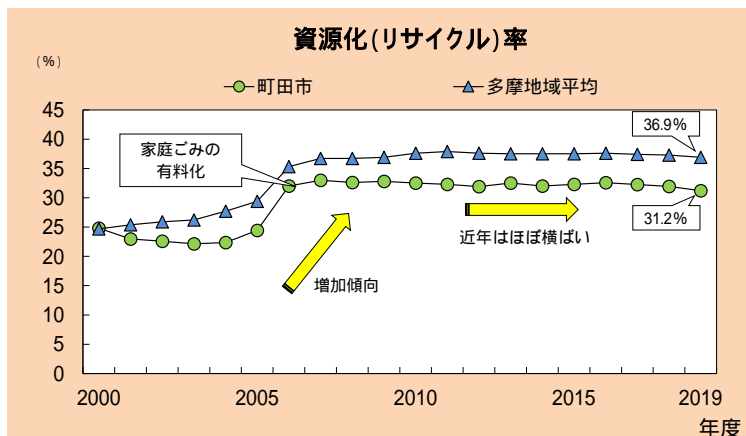


出典: 町田市清掃事業概要

一日あたりのごみ排出量は、2005年度は1,048g/人・日でしたが、2019年度は768g/人・日まで減少しています。

### (2) 資源化(リサイクル)率

資源化(リサイクル)率はほぼ横ばい傾向です。



出典: 町田市清掃事業概要、多摩地域ごみ実態調査

町田市の資源化(リサイクル)率<sup>4</sup>は、2005年度から向上したものの、2007年度以降はほぼ横ばい傾向で推移しています。

2019年度の資源化率は31.2%で、多摩地域の平均と比較すると、5.7ポイント低くなっています。

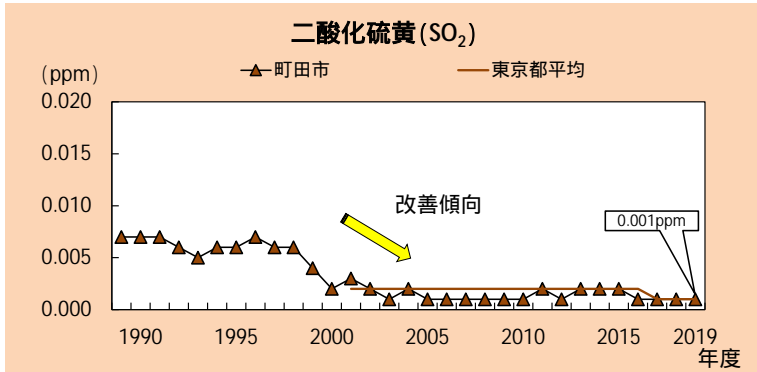
<sup>4</sup> 資源化(リサイクル)率: 一般廃棄物の総排出量に対する資源化を行った総量の割合のことを言います。  
 資源化(リサイクル)率 = 総資源化量 ÷ 総排出量(ごみ回収量 + 資源回収量) × 100



## 2.4. 町田市の生活環境 ～大気や水などの指標からみる現状～

### (1) 大気環境測定結果

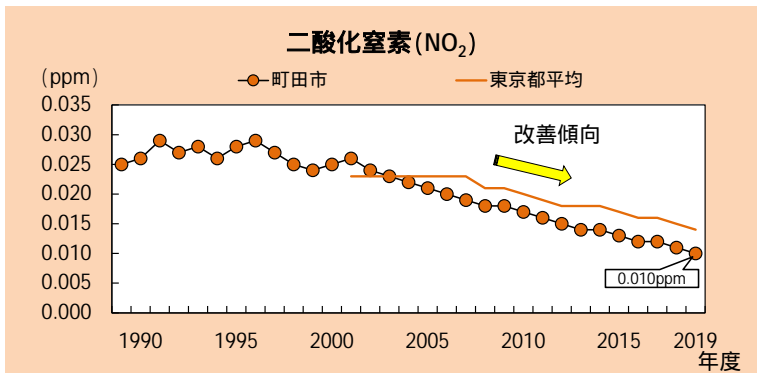
大気環境全般は改善しています。



出典：東京都大気汚染常時測定結果報告及び東京都ホームページ

二酸化硫黄<sup>5</sup> (SO<sub>2</sub>) は、2002 年度以降減少し、改善傾向にあります。

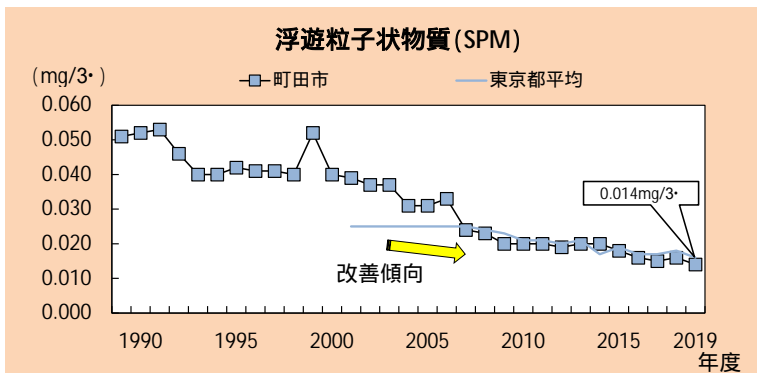
東京都平均とほぼ並び、また、環境基準は下回っています。



出典：東京都大気汚染常時測定結果報告及び東京都ホームページ

二酸化窒素<sup>6</sup> (NO<sub>2</sub>) は、2002 年度以降減少し、改善傾向にあります。

東京都平均や環境基準をも下回っています。



出典：東京都大気汚染常時測定結果報告及び東京都ホームページ

大気中の浮遊粒子状物質<sup>7</sup> (SPM) は、東京都平均や環境基準を下回っており、年々改善傾向にあります。

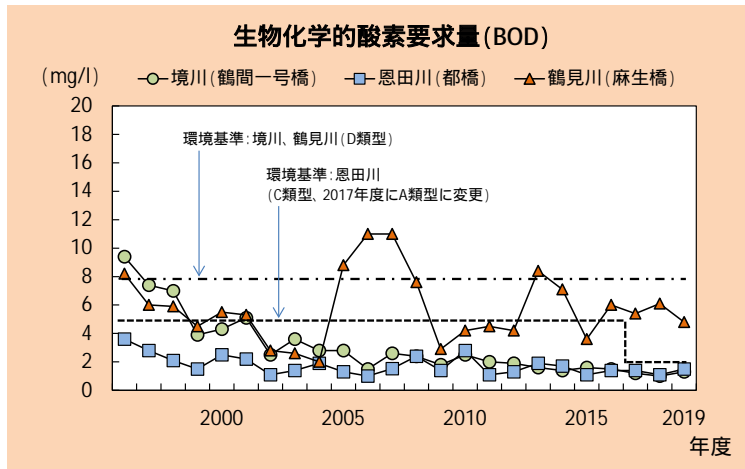
<sup>5</sup> 二酸化硫黄：工場や火力発電所で石炭や重油を燃焼する際に発生するガスです。呼吸器への悪影響があるほか、酸性雨の原因物質でもあります。

<sup>6</sup> 二酸化窒素：物が燃えると必ず発生するガスである窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>) の一つです。燃料により発生する一酸化窒素は大気中で酸化されて二酸化窒素となり、人間の呼吸器に悪影響を与えます。

<sup>7</sup> 浮遊粒子状物質：大気中に浮遊する物質のうち、粒径 10 マイクロメートル (1 マイクロメートルは 0.001 ミリメートル) 以下のものをいいます。ボイラーや自動車の排出ガス等から発生するもので、大気中に長時間滞留し、呼吸器系に悪影響をおよぼす恐れがあります。

## (2) 河川の水質測定結果

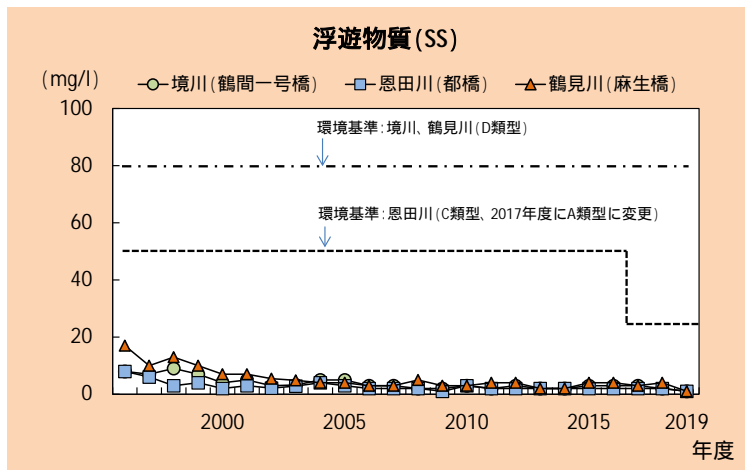
河川の水質は改善傾向です。



出典：東京都公共用水域及び地下水の水質測定結果（年度75%値）

市内を流れる境川、恩田川、鶴見川の水質は、下水道普及率の向上に伴い、1990年代と比べて改善されました。

生物化学的酸素要求量<sup>8</sup>（BOD）は、鶴見川では変動があるものの、2014年度以降3河川とも環境基準を下回っています。

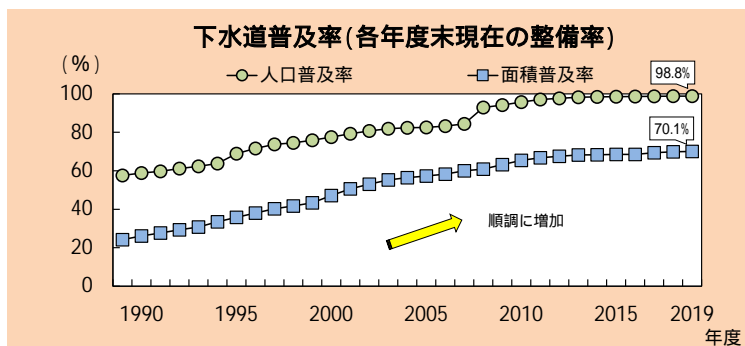


出典：東京都公共用水域及び地下水の水質測定結果（年度平均値）

浮遊物質<sup>9</sup>（SS）は、近年では3河川とも安定して良好な値を示し、環境基準を下回っています。

## (3) 下水道普及率の変化

下水道普及率は順調に増加しています。



出典：下水道整備課資料

町田市の下水道普及率（人口普及率）は、着実に上昇し、2019年度末現在は、98.8%で、前年度と比較すると変化はありません。（面積普及率は前年度と比較して0.2ポイント増加。）

<sup>8</sup> 生物化学的酸素要求量（BOD）：水中の有機物が、微生物のはたらきによって分解されるときに消費される酸素の量のことです。河川の有機汚濁を測る代表的な指標の一つです。河川の環境基準や排水基準などで定められています。数値（mg/L）が大きいくほど、有機物の量が多く、汚れが大きいくことを示します。

<sup>9</sup> 浮遊物質（SS）：水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質の量のことです。主に粘土鉱物、動植物プランクトンやその死骸、工場排水等に由来する有機物や金属の沈殿物等であり、数値（mg/L）が大きいくほど、水が濁っていることを示します。